

5月19日^①から「蚕とまゆ展」を開催します。生活体験館(まゆの家)の展示では、ボランティアの皆さんの制作による蚕を飼うための目棚が設置され、当時の様子を再現します。

目棚とは蚕を飼育するための棚のことで、狭いスペースでたくさんの蚕を飼うことができました。まゆの家は、養蚕を営んだ民家を復元したものです。蚕は、普段人が生活をする部屋で飼育しました。家族総出で世話をし、朝から晩まで桑やりや除沙^{じょうさ}(桑の食べ残しやふんの始末)などに追われやがて上簇^{じょうぞく}(繭を作り始めること)、出荷となりました。

かつて養蚕をしていた市内の古老は「今も目をつむると、蚕が桑を食む^はあの雨の降るようなザワ…ザワ…という音が聞こえるようだ」と、遠い日を懐かしく語ります。